

補助金等支出明細書

法人名 (公社) 日本植物学会

1. 補助金等の名称 平成25年度科学研究費補助金

「研究成果公開促進費研究成果公开发表 (B)」

日本植物学会第77回(札幌)大会 公開シンポジウム

「植物科学の最前線——植物がひらく私たちの未来」

2. 事業の目的及び内容

(1) 目的

植物科学は基礎科学であるが、植物科学が社会の福祉に貢献する可能性は今までに無く高まっている。本シンポジウムでは植物科学の各分野でその可能性を追求している研究者に講演を依頼し、聴衆の方々にその意義を理解してもらうと同時に、進路をまだ決めていない若い人々に、植物科学の研究で社会に貢献する道を提案することを目的とする。現代社会が直面している課題の一つは、持続可能な開発によって将来の人口増加に耐えられる社会構造を構築することだが、植物科学はその実現に、エネルギー/食料生産や環境保全の点で大きく貢献できるポテンシャルを持っている。その点で、今ほど植物科学の社会に対する貢献が期待されていることは無かったと言ってよいだろう。そこで、本シンポジウムでは、貢献が期待されている諸分野で活躍している研究者にお願いして、その現状について講演してもらい、将来、社会で活躍しようとしている人たちに、どのような進路が開けているか、その実際を知って進路選択の一助になるようなシンポジウムになることを期待している。また、既に社会人である聴衆に対しては、植物科学の確かな知見に基づいたアプローチが現代社会の諸課題を解決する有効な選択肢の一つであることを理解してもらう。

(2) 講演会の概要

以上の目的のために、本シンポジウムでは下記の四つの演題を用意した。その内の最初と三番目の演題は、植物の基本的な機能を明らかにすることが、農業、特に開発途上国の農業の振興に直結すること、また、私たち人間の健康維持に大きく貢献できることを示した。最後の演題では、植物科学の研究成果が絶滅危惧種を保全する道筋を提示することに成功し、そのことが地域の振興につながりつつある事例を紹介した。二つ目の演題は、植物の香りが持つ作用という最近発見された極めて基礎的な知見について紹介し、このような発見が実

は様々な課題解決への大きなポテンシャルを持っていることを示した。

本シンポジウムの講演題目：

1. ミネラルを運ぶ分子を研究して、やせた土地にも農業を興す
三輪 京子 (北海道大学創成研究機構、特任助教)
2. 香りが取りもつ植物の社会
塩尻 かおり (京都大学次世代研究育成センター、特定助教)
3. 私たちの健康と植物の二次代謝
山崎 真巳 (千葉大学薬学研究院、准教授)
4. マリモの保全と阿寒湖の未来
若菜 勇 (釧路市教育委員会マリモ研究室、学芸員)

いずれの演題も好評で、会場から多数の質問、意見が寄せられたほか、シンポジウム終了後も、講演者と参加者との間で歓談がしばらく続いた。

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 3. 交付先の公益法人の名称 | (公社) 日本植物学会 |
| 4. 交付実績額 | 900,000 円 |
| 5. 補助金等における管理費 | |
| (1) 会場借料 | 73,600 円 |
| (2) 消耗品費 | 88,097 円 |
| (3) 人件費・謝金 | 191,760 円 |
| (4) その他 | 546,580 円 |
| | 合計 900,037 円 (内利息 37 円) |
| 6. 外部への支出 | |
| (1) 外部に再補助・再委託されているものに関する支出 | |
| 支出内容 | 支出先 金額 |
| | 合計 0 千円 (B) |
| (2) (1) 以外の支出 | |
| 支出内容 | 支出先 金額 |
| | 合計 0 千円 |
| 7. その他 | 内容 0 千円 |
| | 合計 0 千円 |
| 8. 再補助・再委託等の割合 | 0%(B/A) |